

天の父母様の夢を叶える息子娘となりましょう！

2016年度「圓母平愛奨学証書授与式」

韓国から文妍娥・圓母平愛財団理事長をお迎えし、同財団の2016年度「奨学証書授与式」が3月27日、東京・渋谷の松濤本部で行われました。主に首都圏から高校・大学の奨学生とその父母が集う中、最初に圓母平愛財団のビジョンとその活動を紹介する映像が上映。続いて文妍娥理事長が入場され、田中富広副会長の司会のもと授与式が開会しました。授与式では、2月に韓国で行われた奨学証書授与式における真のお母様のみ言を視聴。映像を通し、未来の人材育成にける真の父母様のビジョンと情熱を感じながら、奨学生として選ばれた荣誉と責任を改めて考えさせられる時間となりました。文妍娥理事長は激励の辞で、真の父母様のみ言を中心に、奨学生たちへ深い愛と心情を込めたメッセージを語ってくださいました（一部抜粋して後述）。その後、文妍娥理事長が奨学生一人ひとりに証書を授与され、熱く抱擁。奨学生たちにとっては真の父母様の愛に抱かれる瞬間となりました。最後は、李成萬本部長による億万歳で締めくくられました。

文妍娥理事長のメッセージ

皆さんには天の父母様の背景があるということを忘れないでください。見えないからと言って存在しないわけではありません。「見えないからより貴重である」というお父様のみ言もあります。皆さんの中にある本心、良心をきれいに磨いて、感じていけば皆さんも分かるようになります。「天が私を保護してくださっている」「私を認めてくださっている」と感じることができるでしょう。

（苦労しながら生きていく中で）天がないと思うときがあるかもしれませんが。どんなに善なる人であっても、より大きな福を受けるために苦難を克服していかなければならないとすれば、それを避けるべきか甘受すべきか、という話を真のお父様はされました。苦難を切り開いてこそ、その基盤の上に発展し、天が福を与えることのできる条件となるのです。

未来は誰にも分かりません。天が導かれる恩恵があるということ、愛があるということは（現時点では分かりません）。皆さんが現在を見ても分かりません。皆さんの父母の世代を見て、皆さんの未来の世

代を考えたときに分かってきます。歴史的に長期的に考えてみてください。今だけを見ると失望することもあるかもしれませんが、そうではないのです。

皆さんは（仲間がいるのですから）、是非力を出して、お母様が語られるように天の父母様の夢を自分の夢のように感じることをできたらと思います。天の父母様は見えませんが、根本的な父母であるということ、皆さんの霊人体の父母であるということを感じながら生きていってください。

皆さんは天の父母様の息子娘であり、真の父母様の息子娘です。お母様は「愛する私の息子娘たちが一生懸命努力し、為に生きる目的をもって努力するならば、私はどんな支援もします」とおっしゃっています。

圓母平愛財団はそのような父母の心が根本にあって出発しました。皆さんが機会を得て成長し、皆さ

んの子供たちのために、孫たちのために、あるいは弟妹たちのために、皆さんが機会をつくってあげてことを願う、そのような財団です。

肉身の父母も重要ですが、霊人体は永遠であり、一度できてしまえばなりません。その霊人体の根本である父母は誰か。天の父母様であり、真の父母様です。皆さんは生きていきながら、父母との関係を基盤として感じていくようになるのです。

皆さんがこれから祈禱をするとき、天の父母様の願いと夢について考え、事情について考え、心情について考え、皆さんの夢と天の父母様の夢が同じになるように（祈ってください）。天の父母様の夢が成されるように最善を尽くしたいという心で生活していけたらいいと思います。

皆さんの心が切実になればなるほど皆さんは発展し、目的が切実であればあるほど、皆さんは食べるのも寝るのも忘れるくらいになります。皆さんが本当に好きなことは疲れていても取り組み、目的に向かってまい進するはずです。

その目的が天の父母様の目的と近づいていき、ご父母様が願われる内容となればいいと思います。確実な目的をもって努力をすれば、皆さんはより発展していくことができます。一人だけで発展するのではなく、一緒に激励しながら手を取り合っていけば、力が出てくるでしょう。お互いに関心を持ち、一緒に歩んでいってくれることを願っています。

※上記のメッセージは、文妍娥理事長が語られた内容を翻訳・整理し、一部抜粋したものです。



真の父母様と日本との深い “心情の因縁”を紹介

山口で真の父母様御聖誕・日臨節 75 周年を祝う



①記念大会の会場で ②基調講演を行う柴沼邦彦特別巡回師
③パネル展示コーナーで談笑する参加者

真の父母様の業績とともに、日本と結んで下さった心情の因縁を多くの人に知らせるため、山口教区は3月26、27日の2日間にわたり、山口市内の会場で「真の父母様御聖誕日祝賀及び日臨節75周年記念大会」を開催し、新規の参加者90人を含め多くの人々が集まりました。

会場には、「真の父母様の生涯路程と業績のパネル展示コーナー」、「真の父母様御聖誕日記念の作品公募展示コーナー」を併設。27日には500人収容のホールで真の父母様の御聖誕と共に日臨節75周年を祝賀する記念大会を行いました。

27日午前中にパネル展に来場し、続いて午後の大会にも参加するゲストのため、会場内には軽食コーナーをつくり、サンドイッチやお汁粉などを振る舞いました。また、心のこもった絵画や詩、習字などが展示された公募作品のコーナーには投票箱を設置。来場者に印象に残った作品を投票してもらい、金賞、銀賞、銅賞を選出し、

記念大会で表彰しました。

メインの記念大会では、柴沼邦彦特別巡回師が基調講演。真の父母様との心情の因縁を証しながら、真の家庭を目指す私たちの心情のあり方などを具体的に示しました。

大会ではそのほか、日臨節のために毎年継続して練習を重ねてきた山口教区コーラス隊の式前公演、地元議員からの祝辞、各教会の活動紹介映像の上映、先輩家庭の宣教活動の涙の証し、三代圏家庭復帰の喜びの証し、ピアノ伴奏による歌、創作ダンス、御聖誕祝賀の詩の朗読、100人からなる山口家庭教会コーラス隊の大合唱、そして抽選会などが行われ、非常に盛りだくさんの内容でした。

今回の大会は各家庭教会が創意工夫して作り上げるイベントとなり、初めて参加したゲストも、そして教会員一人ひとりも大復興する2日間となりました。

家庭教会を土台にして 救国救世基盤の造成を

3 家庭が「公認家庭教会」として出発



①公認家庭教会認定式の参加者
②「認定証」を受け取った3家庭と徳野会長ご夫妻（中央）
③メッセージを語る徳野会長

3月31日、東京・渋谷の松濤本部において「神氏族メシヤ・公認家庭教会認定式」が執り行われ、先輩家庭や本部職員など約60人が参席しました。昨年4月の「神氏族メシヤ家庭教会活動規約」施行後はじめてとなる今回の認定式には、先駆けて公認家庭教会として出発する3家庭が臨みました。

まず、矢野治佳伝道教育局長が、一昨年、真のお母様を中心とした世界連合礼拝における「祝福家庭決意文」を紹介しながら、これまでの経過を報告。

続いて、徳野英治会長が記念メッセージを述べ、「神氏族メシヤは全祝福家庭の最終的使命です」と強調。公認家庭教会を土台とした神氏族メシヤの使命完遂と救国救世の基盤造成に向けて出発する3家庭を激励しました。

その後、公認家庭教会の第1号「杉山家庭教会」（1800双・岡山）、第2号「鎌田家庭教会」（1800双・京都）、第3号「坂部家庭教会」（6000双・三重）には徳野会長から認定証が授与され、真尊影（真の父母様のお写真）と家庭教会の看板が伝授されました。

記念撮影に続き、認定された3家庭が挨拶に立ち、天の伝統を相続したモデル家庭となって神氏族メシヤ使命完遂に向けて出発する決意を表明。徳野会長から祝福を受け、公認家庭教会としてスタートしました。

家庭教会長の挨拶

杉山富之教会長

今日は新幹線の中から美しい富士山を見る事が出来ました。神氏族メシヤを勝利すればあんなに美しくなるんだと神様が教えて下さっているようでした。美しい日本をつくる為、私たち夫婦を公認家庭教会として立てて下さった事に感謝しながら、力の限り頑張ります。

鎌田正男教会長

三大祝福復帰の道は、真の父母様につながるということの原点を見据え、救国救世運動に邁進します。「あなたを見たらあなたが通っている教会に行きたくなった」「あなたを見たら神を見出した」という基準まで自らを高めてまいります。

坂部克教会長

私たちの目標は430家庭の祝福です。家庭集会の在り方を今一度見直していきたいと思ひます。公認していただいたので、中心の意識と祈禱の中で、今までとは全く違う天運を受けて、夫婦で力を合わせて精一杯頑張ります。

“絶対精誠を捧げれば、成せないことはない！”

宋総会長ご夫妻が9地区を巡回

4月2、3日の2日間にわたり、^{ソノヨンチョン}宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻は第9地区（大阪）の西大阪、北大阪両教区にある全7教会を相次いで訪問、真の父母様の愛とみ言を届け、食口たちを慰労・激励しました。宋総会長は「天から新しい名前を授かり、家庭連合時代が発表しました」と強調しながら、「絶対精誠を投入すれば、成せないことはありません。天の運勢が臨めば、驚くべき役事が起こるのです」と訴えました。

新北家庭教会 付加
天一国四年天曆2月26日（陽曆2016年4月3日）



- ①メッセージを語る宋龍天総会長（新北家庭教会）
- ②教会員と握手をする李海玉総会長夫人（京阪家庭教会）
- ③門真家庭教会で行われた特別礼拝で
- ④水都家庭教会で行われた特別集会で
- ⑤青年メンバーがバンド演奏で盛り上げた（豊中家庭教会）



【参加者の感想】

■全体的に明るく、皆がとても前向きな集会でした。全員が宋総会長と写真を撮って頂き、ありがとうございました。名前を通して祝福される神様から家庭連合の名前を頂いた日本の教会には運勢があるので、自信を持って神氏族メシヤ活動、社会貢献活動を進めて参ります。（水都家庭教会）

■一緒に写真まで撮る機会を与えて頂き息子は「（宋総会長が）ずっと手を握ってくれていた」ととても感激していました。お父様やお母様のお写真もあり見るものがないものを見せて頂きました。御父母様が精誠を尽くして勝利してこられた内容を聴くことができました。確信をもって絶対的精誠を尽くせば絶対勝利できるという心情を相続し、天の父母様に似た真の愛を実践していくことこそが、地上で苦勞されているお母様の願いであると感じました。（豊中家庭教会）

勇気をもって氏族伝道を推進しよう！

徳野会長ご夫妻が各地を訪問

徳野英治会長ご夫妻は4月に入って、第16地区（東中国）、3地区（北関東）、第5地区（東京）、第8地区（東海）などを訪問し、真の父母様の心情世界を証ししながら、「神氏族メシヤ元年」である今年、氏族伝道を積極的に推進していこうと呼び掛けました。



- ①神戸家庭教会で行われた特別礼拝（4月3日）
- ②メッセージを語る徳野英治会長（姫路家庭教会）
- ③参加者と握手をする徳野会長ご夫妻（神戸家庭教会）
- ④感動的な歌を披露した小学生の合唱隊（神戸家庭教会）
- ⑤徳野会長のメッセージに耳を傾ける参加者（姫路家庭教会）

【参加者の感想】

■力強いみ言を頂き、とてもただされました。（分派問題に関する）愛の減少感の内容で、どんな人でも覚える“減少感”を越えるためには、御父母様との心の距離がいかに近いのか、一つになっているかが重要なのだと思いました。徳野会長の親戚を動員したエピソードも親近感がわき、とても良かったです。「先駆けて召命された私たちが勇気をもって声を掛け伝えていく5%が大事だ」という言葉が心に響き、「相手の5%もある。伝えるという5%を果たせば、霊界が全く変わってくる」という内容にも希望を感じました。（神戸家庭教会）

■さまざまな問題がある中、悩みそうになっていましたが、徳野会長のメッセージを聴いて、「真のお母様と一つになっていけば大丈夫だ」と感じました。また神氏族メシヤ活動を頑張っていこうと決意できました。（姫路家庭教会）

■大変良かったです。分派活動に対する正しい見解、常に謙虚さで愛の減少感を克服することも重要だと感じました。そして神氏族メシヤのための本格的活動が実を結ぶ時代、本当に希望の時代ですが、責任を果たさなければどんな時代が襲って来るか二者択一です。気を引き締めて行かなければと思いました。（姫路家庭教会）

祝福結婚の理想を胸に新たな門出

千葉・浦安で「二世家庭出発修練会」



①



②



①夕食の風景
②先輩二世家庭の話に耳を傾ける修練生
③松濤本部で行われた研修会

4月2～3日、千葉・浦安の一心特別教育院で「第11回二世家庭出発修練会」が行われ、過去最多の120人（60家庭）が参加しました。北は北海道から南は福岡まで、さらに海外からも2人が参加するなど、全国全世界に散らばった二世が一つの場所に集まり、祝福家庭の理想と伝統を学ぶとても恩恵深い場になりました。また、参加者の半数以上が今年祝福を受けたばかりのカップルで、夫婦が修練会を通して愛を深めていく姿がとても印象的でした。

修練会1日目は、「家庭生活と夫婦愛の成長」「二世家庭の伝統と生活文化」「家庭出発に向けて」の3つの講義を中心に、祝福家庭として目指すべき理想像と、それを実現するための家庭における信仰生活の重要性を学んでいきました。

2日目は、より具体的な未来の家庭像をイメージするために「ライフプランニング」（人生の計画づくり）を2人で行い、家庭出発に向けての計画を立てる時間を持ちました。さらに、すでに家庭出発をした先輩二世家庭とのグループ交流を実施。「家庭出発の赤裸々な本音を先輩家庭から聞くことで、多くの不安が解消された」という感想が多くありました。

また、今回初めて夫婦で手紙を交換する時間を持ちました。はじめは恥ずかしそうに向き合っていたカップルが多かったものの、時間がたつにつれて涙を流しながら手紙を読み合うメンバーが続出。それまでの苦労や未来に対する不安、しかしそれ以上に愛する相手が目の前にいる希望から来る喜びの空気で会場が包まれ、最後に2人でハグをして締めくくりました。

閉会式では、桜井正上・家庭教育局副局長が参加者に聖物（真尊影、聖塩、聖燭）を伝授し、祝福を行いました。聖燭を2人で握り涙を流しながら祈る若い二世家庭の姿に、神様もとても喜んでおられるだろうと心から感じさせられる修練会でした。



今年2月に韓国で行われた天宙祝福式に参席したカップルの新たな門出を祝うイベントが4月2日、東京・渋谷の松濤本部で開催されました。鴨野守・広報局長が主催者として祝辞を述べた後、阿部美樹・家庭教育局長が「信じて愛して共に暮らす」と題して講話。その後、参加者は代々木公園に移り、満開の桜の下でお弁当を食べながら和動のひと時を過ごしました。

地域貢献をしながら真の家庭運動をアピール

宮崎・都城家庭教会でチャリティバザー



①



③



②



④

①教会員が総出でおもてなし ②教会前がバザー会場に
③多くの人々の支援を受けて集まった品物が並ぶ
④青年たちも積極的に参加

「氏族、地域の方々に真の父母様を証しできる祝福家庭となろう」のスローガンのもと、3月20、21日の2日間にわたって、宮崎教区都城家庭教会でチャリティーバザーが行われました。バザーでの収益は、都城市社会福祉協議会に寄付され、同協議会からは感謝状が贈られました。

都城家庭教会はこれまで、地域の人々と交流する機会はありませんでしたが、地元自治会に入会し、地域住人との積極的な交流をスタート。都城市からバザー開催の許可を受け、教会周辺でチラシを配りながら品物集めを進めていく中で、自治会からテントの貸し出しを受けたり、隣接するカラオケ店から駐車場を提供してもらうなど、様々なことが導かれていきました。

婦人たちは無料で提供する豚汁を前日から精誠を尽くして準備。バザー当日は、教会の壮年が車の誘導を担当する一方、韓日家庭はキムチ販売、国際家庭はパキスタン料理や韓国料理のチヂミの調理を行い、フードコー

ナーは国際色豊かに。さらに、青年学生や子供たちは風船作りや店頭販売を担当するなど、教会全体が家族のように一つとなって2日間取り組みました。

最初は訪れるゲストがまばらだったのが、時間が経つにつれて増加し、最終的に100人以上が来場。教会から足が遠のいていた食口や、教会に良くないイメージを持っていた親族を積極的に連れてくる教会員も相次ぎ、メンバーが真心からのおもてなしをしていく中で、ゲストたちは心を開いていきました。

今回のイベントを通して、地域の為になることを「ウリヌンハナダ（私たちは一つ）」の精神で実践しながら信頼関係を結び、堂々と真の父母様を証ししていくことにつながると実感。また何よりも、家庭連合時代に入ったことを肌で感じ、自信を持つことができた食口たちは、神氏族メシヤ勝利に向けて確かな手応えをつかんでいました。

ゲストがゲストを誘い、2176人が参加

岡山教区が「天運相続 春の書写礼拝」開催



- ①会場を埋め尽くした参加者
- ②グランドフィナーレで力強いダンスを披露する青年
- ③講話を行う浅川勇男先生

3月27日、「2016岡山合同2000名天運相続 春の書写礼拝」が、岡山市内の会場で盛大に開催され、目標を大きく超える2176人が参加しました。

今回の書写礼拝は、救国救世基盤造成のための重要なステップとなる礼拝と位置付け、岡山の勝利が全国の勝利となり、VISION2020の勝利の土台となるという意識で開催。当日は、地元議員やNPO法人の代表など10人の来賓が参加する中、一人で10人以上を動員したメンバーが23人、三代圏での参加が111家庭に上るなど、県内各地から続々と参加者が詰めかけ、波が押し寄せてくるような勢いで大盛況となりました。

書写礼拝では、浅川勇男先生が「平和な家庭は天国の基礎、家庭の原動力は愛」と題して講話。「文鮮明先生は、たとえ恨みを抱かざるを得ない境遇にあったとしても、相手が否定してくればくるほどさらに愛を投入していかれた方でした。愛の人生を歩まれた文先生のみ言を書写し実践すれば、『家和して万事成る』です」と訴えると、会場全体が感動の渦に巻き込まれました。

1年前までは教区で1000名礼拝を行うのも簡単でない状況で、今回も2000人の目標を立てたとき、過去のいかなる大会でも達成出来なかった動員目標であり、この教会も難しいという雰囲気でした。

そんな中、昨年の岡山家庭教会単独で行った1000名礼拝の勝利を教区全体に連結。また教会リーダーが先頭に立ちながら、教区が一丸となって歩んだ結果、婦人代表全員が10人以上の動員を勝利し、CIG復興団メ

ンバーの中には20人以上を動員する人も出てきて全体を牽引し、今回の大成功に至りました。

ゲスト20人を参加させたCIG復興団のFさんの証し

今回はなかなか動員が進まず、3月に入っても2人しか決まらない状況でした。学生時代の友人や伝道前線に出会った方にもひたすら声を掛けていっても決まらず、目標の10人は無理ではないかと思っていました。

そんな中、ゲストのSさんが「(書写礼拝に)参加したら良いことがあるよ」と、私以上に色々な方に声を掛け、自分の家に他のゲストを集めたりもして下さいました。私が早く説明しないでいると、「何をやっているの、早く説明しなさい!」と叱咤して下さいました。さらには、キャンセルになりそうなゲストを説得したり、ゲストの予定を変更させてまで動員して下さいました。

それだけではありません。声を掛けられた方々が、自分の兄弟や娘や御主人に声を掛けて動員が広がっていったのです。結果として、2日前にも1人、前日にも1人の動員が決まり、当日はキャンセルだった方が急きょ参加され、皆さん大変喜ばれました。

本当に最高の日を迎えることができ、幸せな思いになりました。ゲストがゲストを動員し、またゲスト同士が、どちらがたくさん動員できるかと話し合うほど頑張って下さり、最終的に20人が参加して下さいました。

日本の未来を憂う大学生らが集結

福岡で「UNITE FUKUOKA」結成



- ①結成集会に集まった青年学生たち
- ②主催者の挨拶を聴く参加者
- ③福岡・天神で行われたデモ行進
- ④拳を振り上げて訴える学生たち

3月31日午後、福岡市中央区の天神中央公園で、国際勝共連合大学生遊説隊「UNITE (ユナイト)」の取り組みに共鳴した九州大学の学生などが中心となり、「UNITE FUKUOKA」の結成集会とデモ行進が行われました。集会には、UNITEと志を同じくする地元の大学生や青年ら約80人が参加。福岡の中心街に「安保法制賛成!」「憲法改正!」などの力強い訴えが響きわたりました。

今年1月、東京大学の学生4人を中心に東京で「UNITE」が結成され、首都圏の主要な駅頭をはじめ、仙台、名古屋など延べ34カ所で遊説を実施。中国の脅威や日本共産党の実態、沖縄の基地問題などに対して、日本の未来を憂う大学生の立場から積極的に主張を発信し、大きな反響を得ました。

結成集会には、福岡大学の名誉教授や福岡県議会議員が駆けつけ、激励のメッセージを贈っています。

UNITEは、今後も日本各地での大学生遊説隊の結成を予定しており、6月には参議院選挙を見据え、全国で一斉に遊説活動を行う計画もあります。

【参加者の声】

■初めてデモ行進に参加してみて、率直に感じたのは、私たち若者も政治的な主張を発信することができるし、行動できるということです。また、政治について、もっとしっかりと学びたいと思いました。自分の言葉で訴えるお兄さん・お姉さんが本当にかっこ良かったです。(高校生・女性)

■(UNITE FUKUOKAメンバーの)スピーチは分かりやすく、今の日本がどんな危機に直面しているのか、そのために私たちが何を訴えるべきなのか、納得できる内容でした。(デモ行進に対して)ツイッターで賛同してくれた人を発見し、やった意味があったんだと嬉しくなりました。(大学生・女性)

■本当に勉強不足な状態で結成集会に参加してしまったことを、大変申し訳ない思いながら、今回、演説したお兄さんお姉さんのように、私もこれから日本のために立ち上がっていきたいと思いました。(大学生・女性)

全国の伝道の証し

84歳の老婦が決意し、3カ月余りで29人を独身祝福

鹿児島教区霧島 家庭教会



※ Nさん（3万双既成）は84歳の高齢でありながら、独身祝福の祝祷権を得た喜びに突き動かされ、バイクにまたがりながら、親族をはじめ友人知人のすべてを生きている間に祝福してあげたいと奔走しています。

昨年、霧島家庭教会は天の導きのもと、素晴らしい聖殿が与えられ、その聖殿を活用して祝福式が行われる様になりました。3回行われた祝福式には、毎回数組の既成家庭が参席。小さな教会でも感動的な素晴らしい祝福式を行なう事が出来るようになりました。

そのような状況のなか、独身祝福も力を入れて取り組みははじめました。

南基俊教会長が「独身祝福も毎回40人を目標に」と決意して取り組まれている姿を通して、私も本当に決意して頑張ろうと思いました。

祝福の説明をして聖酒を飲んでもらい祝祷するという活動ですが、「一人でも多くの人に祝福をしてあげたい」「祝福家庭として霊界に送ってあげたい」と思うと、いてもたってもいられない気分になります。そして頑張ろうと思うと、不思議といろいろな方の顔が浮かんできました。親戚を始め、ご近所の方々、中には数年、数十年ぶりに会う人もいましたが、訪ねて話をするとみんな本当に喜んで聖酒を飲んで下さいました。

早くにご主人を亡くされたある婦人は、私が会

いたいと強く思ったところ、突然電話があり「会いたいと思い電話したよ」と言ってこられました。翌日その方に会ってみると、たまたまタンスを開けたときに、私の亡くなった主人の名義の香典袋が出てきて、会いたいなと思って何となく電話をしたと話し、聖酒を飲んで下さいました。このことを通して、私の亡くなった主人も共に霊界から協助してくれていると感じました。

また、詩吟や踊りを一緒にやっていた別の方ですが、数年前に真のお父様の自叙伝を差し上げたとき、「Nさんは、統一教会（現：家庭連合）の人だったのね。道理で他の人と違うのね」（良い意味の返答）と言って下さったことを思い出しました。私が会いに行くと言ったら、その方は大変喜んで下さいました。最近体が弱くなって誰とも会わないようになっていましたが、祝福の話をして聖酒を飲んでもらったところ、本当に喜んで「良かった、良かった、元気が出たよ」と言って下さいました。

このようにしながら、昨年末から3月までに29人の独身祝福をしました。今後はタブレットを

使って、その方々のケアをしていきたいと思います。

私は今年84歳で、やがてバイクに乗れなくなると自由に訪問する事が出来なくなるので、体が

動く今の内に一人でも多くの方に独身祝福をしてあげて、地上に多くの祝福の基台を作りたいと思っています。

「原理チャート」100回訓読後、友人が祝福に導かれる

宮城教区 仙台家庭教会

ある受講生が、古くからの友人を祝福に導きました。

受講中のO婦人は、20年程前にみ言に出会い、霊肉祝福を受けたものの、教会でのさまざまな葛藤を抱かれ、しばらく教会から距離を置いていました。

教会では家庭書写会を通して、幸せな家庭づくりと教会文化の改善を目指した取り組みをする中で、O婦人も書写堂で受講を始め、教会にも喜んで通われるようになりました。

O婦人は以前、『「原理講論」要約訓読チャート』を100回読んだら良いことが起きるから、やってみたら良いよ」と食口に言われたことが心に残っていました。そこで毎日約20分間、仏壇の前で亡くなったご主人と先祖と一緒に訓読を継続していきました。そんな中、100回目の訓読のときに急に体調を崩したのです。しかしこの試練を通して、以前み言を聞いたことがある夫の友人（女性）を祝福に導きたいという思いが湧きあがってくると同時に、今まで抱えていたわだかまりが、スカッと解消されたそうです。

しかし一方で、「急に祝福の話をしても大丈夫だろうか」と不安になり、なかなか行動に移せずにいたのですが、意を決してその夫の友人に話を

したところ、祝福を受けることを快く承諾してくれたのです。O夫人は「訓読の精誠と亡き夫と先祖の協助があったのだと思います」と振り返ります。

友人はその後、ご主人に家庭連合の話を伝え、祝福について説明し、「祝福を一緒に受けよう」と話したところ、ご主人は「いいよ」と快諾。夫婦で既成祝福を受けることがスムーズに決まったのです。

祝福式の後、祝福を受けたご夫婦に「今回、どうして祝福を受けようと思ったのですか」と尋ねてみたところ、「O婦人がとても変わったのがわかったから…。こんなに美しい笑顔でしょう」と言いながら、O婦人に感謝しておられました。

O婦人は現在、「心の書写」と「原理チャート訓読」、そして教会での学びを通して、心に引っ掛かっていたものがとけて、親族や友人にも「心の書写」の話をし、書写堂を紹介しています。そして今は、感謝の気持ちから「原理チャート訓読100回」を再度始められています。

一連の出来事を通して、積み重ねた日々の精誠は目には見えないけれども、神様が導いて下さる大切な条件なのだと改めて実感させられました。